



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月10日

上場会社名 アイサンテクノロジー株式会社
 コード番号 4667 URL <http://www.aisantec.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 淳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 曾我 泰典

TEL 052-950-7500

四半期報告書提出予定日 2021年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,695	2.9	137	47.2	135	48.1	81	56.1
2020年3月期第3四半期	2,774	1.1	259	34.6	260	42.9	186	55.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 87百万円 (54.0%) 2020年3月期第3四半期 189百万円 (63.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	14.75	
2020年3月期第3四半期	33.59	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,029	5,716	81.3
2020年3月期	7,486	5,728	76.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 5,716百万円 2020年3月期 5,728百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		18.00	18.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

前期実績(2020年3月期)の期末配当における1株当たり配当額には、創立50周年記念相当の2円を含めております。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,700	9.3	470	2.5	460	7.1	322	3.3	58.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	5,542,800 株	2020年3月期	5,542,800 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	155 株	2020年3月期	80 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	5,542,677 株	2020年3月期3Q	5,542,720 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきまして、新型コロナウイルス感染症の感染の拡大・縮小を繰り返す中、感染予防を目的とした自粛要請、行動制限が期間前半にあったことから、世界経済、国内経済は総じて大きな落込みからのスタートとなりました。その後、新しい生活様式が取り入れられ行動制限が解除されるとともに、経済対策としてGoToトラベル事業などが実施され、回復基調にありましたが、年末にかけて急速に感染が広がったことから、景気の先行きに対する不透明感が強まってまいりました。感染収束に向けて期待されているワクチン開発の報道が海外を中心に発信されておりますが、その効果が出るには一定の期間を要するものと考えられ、当面はwithコロナ社会として対応していくことが求められております。一方、その間も、スーパーシティ法案の成立や自動運転社会実現に向けた規制改革など、各方面で議論が継続されております。

こうした状況の中で当社グループは、「withコロナ」での当社グループとしての働き方の指針「AISAN-New-Standard-Working Style with Corona」を定め、時差出勤、テレワークの活用、ウェブ会議システムを活用した商談など新たな様式を用いた事業活動を行ってまいりました。中期経営計画3年目の本事業年度は、2020年8月7日に公表の通り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などから経営目標の引き下げを行いました。事業活動としては引き続き、「未来の社会インフラを創造する」をキーワードに国土強靱化、次世代防災、不動産登記行政といった分野への取り組みとともに、スマートシティ、自動運転社会の実現や、次世代測量用ソフトウェアなどの新製品開発を目指し、積極的に投資を行っております。当第3四半期連結累計期間においては、「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」として各種補助金等の事業が多方面より発表され採択されている中、お客様に自社製品、各計測機器への購買動機を高めるための活動を引き続き行ってまいりました。高精度三次元地図の作成請負業務については、前連結会計年度からの仕掛案件への対応、新たな案件受注に向けた取り組みを行ってまいりました。自動運転実証実験請負に関しては、今年度に計画される案件の受注に向けた活動とともに、受注済み案件の実施の為に協議を継続して実施してまいりました。

(前年同期との比較)

前年同期との比較につきましては、以下の通りとなります。

- A) 自社ソフトウェアに関連する事業は、前連結会計年度に、当社主力商品である「Wingneo」シリーズのライセンス販売において、消費増税並びにWindows7サポート終了を機に、それまで製品のアップデートに消極的だったお客様の購買意欲が高く、売上高が伸長しましたが、その反動から当第3四半期連結累計期間は前年同期の実績を下回りました。
- B) MMS (Mobile Mapping System) 計測機器販売は、前第3四半期連結累計期間にMMS計測機器を複数台の売上計上する大型案件が発生した一方、当第3四半期連結累計期間においては、これまで販売してきたMMSの保守契約に係る売上に加え、MMS計測機器の新規販売の売上を計上しましたが、販売台数で前連結会計年度を下回ったことから、前年同期の実績を下回りました。
- C) 三次元計測請負業務及び高精度三次元地図データベース整備は、第2四半期連結累計期間までは、自動走行の研究開発分野での利用を目的とした高精度三次元地図の受注が前連結会計年度に堅調に推移したことから、その仕掛案件への納品対応を行い、売上計上を行いました。一方で、国内の企業や自治体などにおいて、一部高精度三次元地図の商談が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、次年度以降への延期、もしくは中止となっております。その結果、前年同期の実績を下回りました。
- D) 自動走行システムの販売および実用化に向けた実証実験は、これまでに受注していたシステムや受託業務の売上計上により、当第3四半期連結累計期間は前年同期の実績を上回りました。一方で、将来の事業活動に向けた先行投資として、当第3四半期連結累計期間においても、事業推進に必要な人財確保、システム構築や機材などの調達を積極的に行っております。
- E) 前連結会計年度から引き続き、今後の事業活動拡大や利益確保に向けた必要な投資を行った結果、人件費及び研究開発費が増加し、販売費及び一般管理費は前年の実績を上回りました。人件費は、近年積極的に人財投資を行ったことに伴う人員増から増加したものでありますが、すでに事業活動の中で効果が現れております。また、研究開発費については、計画に基づく新たなソフトウェアや、自動運転に関する技術の開発を推進するため、積極的に投資を行ったものであります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,695百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は137百万円（前年同期比47.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は81百万円（前年同期比56.1%減）となりました。

セグメント別においては、次の通りであります。

① 測地ソリューション事業

測地ソリューション事業におきましては、当社グループの主力製品である「WingneoINFINITY」の最新バージョンを、当該製品のサポートサービスの一つとして、対象となるサポートサービスに加入しているお客様に対し、第1四半期にお届けしたことにより、当該役務の完了に応じた収益を計上しました。一方で、新型コロナウ

イルス感染症拡大の影響から、テレワーク等でご利用いただくためのライセンスの売上計上はあったものの、上記前年同期との比較のA)に記載の理由から、新規でのライセンス販売は減少しました。以上により、売上高は前年同期実績を下回る結果となりました。

測量・土木分野における点群処理ツール「WingEarth」は、三次元測量の啓蒙活動を積極的に展開し、各種補助金を活用した販売により一定の効果がありました。特に、三次元計測機器とのセット販売をすることで売上を伸ばし、前年同期の実績を上回る結果となりました。また、高額商品である測量機器の利活用をサポートする測量機器総合マーケット「GEOMARKET」を開設し、リユース・リペア・レンタルの3Rサービスをウェブ展開することにより、収益に貢献しております。

コロナウイルスによる事業活動制限から一部科目では経費支出が減少した一方、新たなソフトウェアの研究開発に伴う人員及び工数の増加に加え、新事務所開設に係る経費、販売促進ツールの制作に伴い、販売費及び一般管理費が微増となりました。

以上の結果、測地ソリューション事業の売上高は1,452百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント利益（営業利益）373百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

② G空間ソリューション事業

G空間ソリューション事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により国内の多くの企業や自治体などとの商談、打ち合わせがオンラインに代わるとともに、高額商材のMMSの商談や一部高精度三次元地図の商談において、次年度以降への延期や中止などの影響を与えることが想定されます。

MMS計測機器販売においては、当第3四半期連結累計期間にて、既存顧客へのMMSの保守契約に係る売上、性能向上のための受注に加え、新規のMMS計測機器などが売上となった一方、前連結会計年度の第2四半期会計期間においてMMS計測機器を複数台売上計上する大型案件が発生した反動や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による商談の延期から、前年同期の実績を下回る結果となりました。

高精度三次元地図関連事業においては、自動走行の研究開発分野での利用を目的とした高精度三次元地図の受注が前連結会計年度に堅調に推移したことから、その仕掛案件への納品対応を行い、売上計上を行いました。一方で、国内の企業や自治体などにおいて、一部高精度三次元地図の商談が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、次年度以降への延期、もしくは中止となっております。その結果、前年同期の実績を下回りました。

また、コロナウイルスによる事業活動制限から一部科目では経費支出が減少した一方、生産体制の強化や効率化、新たなツール開発のために開発部署を新設し、積極的な研究開発を進めた結果、販売費及び一般管理費は増加しました。

以上の結果、G空間ソリューション事業の売上高は847百万円（前年同期比20.6%減）、セグメント利益（営業利益）26百万円（前年同期比80.6%減）となりました。

③ 新規事業

新規事業におきましては、自動走行の分野につきまして、前連結会計年度に引き続き、当連結会計年度も、国内の多くの企業や地方自治体などから自動走行の実用化に向けた実証実験や自動走行車両の構築業務等を計画しております。自動走行車両の構築業務等は、前連結会計年度からの仕掛案件への納品対応を行い、売上計上を行いました。実証実験については、複数の事業で採択され、採択された案件の実施が当第3四半期に随時始まりました。しかしながら、昨年末からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年明けの1月には複数の都道府県で緊急事態宣言が発出される状況になり、一部の実証実験では、その実施も不透明になってきております。これらの実証実験が中止・延期となった場合、本事業の収益に影響を及ぼす恐れがあります。

また、引き続き、現時点における本事業分野は投資フェーズと捉えており、将来の事業活動に向けた先行投資として、当連結会計年度においても、事業推進に必要な人財確保、システム構築や機材などの調達を積極的に行いました。

以上の結果、新規事業の売上高は386百万円（前年同期比76.2%増）、セグメント損失（営業損失）37百万円（前年同期比は38百万円のセグメント損失）となりました。

④ その他

その他事業の売上高は7百万円（前年同期比4.5%減）、セグメント利益（営業利益）4百万円（前年同期比21.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて457百万円減少し、7,029百万円となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金が418百万円減少したこと等によります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて444百万円減少し、1,312百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が291百万円減少したこと等によります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて12百万円減少し、5,716百万円となりました。その主な要因は利益剰余金が18百万円減少したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年8月7日に公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,108,772	4,037,856
受取手形及び売掛金	1,459,893	1,040,927
商品及び製品	80,517	36,274
仕掛品	20,997	24,524
その他	35,637	114,540
貸倒引当金	△1,338	△816
流動資産合計	5,704,479	5,253,308
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	282,523	315,965
減価償却累計額	△134,619	△138,688
建物及び構築物(純額)	147,903	177,277
土地	341,789	341,789
リース資産	297,114	313,533
減価償却累計額	△154,213	△105,284
リース資産(純額)	142,900	208,249
その他	201,312	191,400
減価償却累計額	△174,234	△177,439
その他(純額)	27,078	13,960
有形固定資産合計	659,671	741,277
無形固定資産	318,446	265,091
投資その他の資産		
投資有価証券	632,147	640,285
その他	171,787	129,185
投資その他の資産合計	803,935	769,471
固定資産合計	1,782,053	1,775,840
資産合計	7,486,533	7,029,148

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	692,472	401,108
短期借入金	-	137,500
リース債務	43,531	63,960
未払法人税等	129,642	23
前受金	272,418	226,066
賞与引当金	110,280	46,284
その他	224,020	113,772
流動負債合計	1,472,365	988,717
固定負債		
リース債務	83,149	130,538
退職給付に係る負債	180,547	174,767
その他	21,598	18,823
固定負債合計	285,295	324,130
負債合計	1,757,661	1,312,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,917,294	1,917,294
資本剰余金	2,305,256	2,305,256
利益剰余金	1,500,036	1,481,994
自己株式	△13	△152
株主資本合計	5,722,573	5,704,393
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,298	11,908
その他の包括利益累計額合計	6,298	11,908
純資産合計	5,728,872	5,716,301
負債純資産合計	7,486,533	7,029,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	2,774,838	2,695,014
売上原価	1,581,340	1,573,365
売上総利益	1,193,498	1,121,649
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	322,991	282,941
退職給付費用	13,016	27,465
その他	597,551	673,958
販売費及び一般管理費合計	933,560	984,366
営業利益	259,937	137,282
営業外収益		
受取利息	201	189
受取保険金	1,406	1,178
その他	1,763	886
営業外収益合計	3,372	2,254
営業外費用		
支払利息	2,705	4,361
その他	174	70
営業外費用合計	2,879	4,431
経常利益	260,430	135,105
特別利益		
投資有価証券売却益	2,223	-
特別利益合計	2,223	-
特別損失		
固定資産除売却損	-	1,495
特別損失合計	-	1,495
税金等調整前四半期純利益	262,654	133,610
法人税、住民税及び事業税	62,160	13,422
法人税等調整額	14,292	38,461
法人税等合計	76,452	51,883
四半期純利益	186,201	81,726
親会社株主に帰属する四半期純利益	186,201	81,726

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	186,201	81,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,612	5,609
その他の包括利益合計	3,612	5,609
四半期包括利益	189,814	87,336
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	189,814	87,336

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。